

まちの話題

話題のニュースやイベントなどを紹介！

かわいい系？いやリアル！

鍵屋でおばけさがしイベント



8月17日～9月9日、枚方宿鍵屋資料館でおばけの人形を探すイベントが開催されました。5回目の今年はひらかた市民菊人形の会が制作したおばけ4体にカッパやカワウソも仲間入り。和の趣ある館内にマッチして迫力が増した人形たちの精巧な作りに興味深く見入る人も。友達同士で訪れた市内在住の森下愛菜さん（17歳・写真左）と寝屋川市在住の水内世那さん（18歳・同右）は「カッパはかわいい系と思いきやリアルでびっくり」と顔を見合わせていました。

モノ作りして仕事決めよ！

ワークショップ付き企業説明会に48人参加



8月26日、ものづくり体験を交えた若年求職者のための企業説明会がくずはモールで開かれ、市内に本社や工場のある5社が出展し、大学生ら48人が参加しました。化粧品

などを生産・販売する企業ブースでは女子学生らがハンドクリーム作りや販売につなげるポップ作りに挑戦。牧野から訪れた22歳の学生は「体験付きの説明会は楽しいですね。できれば地元・枚方でもものづくりに関わる仕事がしたいです」と他のブースも巡っていました。

家族みんなで楽しめる場所に

枚方モールオープンに700人が行列



9月6日、枚方市駅東口直結の複合施設・ステーションヒル枚方に、商業施設の枚方モールが開業

しました。新開業エリアには日本や関西初出店の雑貨・飲食店など約78店が入り、既存のステーションモールと合わせて約100店舗が集結。開店を待つ列には約700人が並び、市内在住の安藤亜由美さん（43歳・写真右）は館内マップを手に「私はグルメ、息子はスポーツ用品、娘はアクティビティと家族みんなが楽しめる場所ができてうれしい」と心を躍らせていました。

努力の成果伝わる！

ジャンルや世代を超えた市民総合文化祭



8月24日～9月1日、総合文化芸術センター本館で市民総合文化祭が開催されました。8月26日のアラカルトの部ではフラダンスや小学生2人の漫才など11組159人が出演。山吹流銭太鼓やすけい会（写真）が市テーマソング「この街が好き」を披露し、曲に合わせ観客の手拍子で会場が一体となる場面も。毎年観覧しているという木村良太郎さん（84歳）は「例年に増して完成度が高く練習してきたことが伝わった。来年も楽しみ」と笑顔でした。

↓ほかの話題はこちらでチェック！



市公式フェイスブック

「マイカタちゃいます、ひらかたです。」



市公式 X

「こちら、枚方市です！」



市公式Instagram

「i_am_in_hirakata」



市公式LINE

「枚方市」

高校生のアイデアがミソ

老舗みそ屋とのコラボ商品、文化祭で大好評



9月6日・7日に開催された香里丘高校の文化祭で、市内の老舗みそ屋「北村みそ本家」のみそを使ったコラボ商品が販売されました。「実社会に結びついた学び」を目的とする探究授業の一環で2年生 237 人が新商品の案を出し合い、みそカツバーガーなど厳選された4品が模擬店に並びました。松田大翔さん（写真中央）は「商品を考えて実際に売る難しさを肌で感じられた。大好評でよかった」と笑顔で話しました。同商品は 10 月 13 日のひらかた万博イベントでも販売されます。

長寿の秘訣はおしゃべり

敬老のつどい、熟練の漫才に700人が笑顔



9月4日、長寿を祝う敬老のつどいが総合文化芸術センター本館で開催され772人が参加しました。高齢社会憲章の朗読、高齢者保健福祉月間啓発標語の表彰のほか、ステージの最後に漫才コンビのザ・ぼんちが登場。どちらが相手より長生きするかを言い争うシーンでは、熟練の掛け合いに会場が笑いに包まれました。偶然隣に座った参加者と談笑していた綿原百合子さん（90歳）は「おしゃべりは楽しいし認知症予防にもなりますね」と笑顔でした。



▲七月隆文さん代表作

▶枚方T-SITEで行ったトーク&サイン会(2019年)。中には四国から駆けつけてくださった方も。家族も見てください、故郷に錦を飾れた思いでした。



「枚方」は全国区

東京に出て長い月日が経ちましたが、人と話すたび実感するのは枚方の知名度の高さです。出身地を言うとかかなりの確率で「あの、ひらパーの！」となります。市町村のレベルでここまで名の通った地はきつと珍しく、そのたび、そこで生まれた自分がちよっと誇らしくなります。

福原遥さんを主演に、ひらパーを舞台にしたTVDドラマを作ったことも印象深くあります。

枚方は夢を抱いた時代の思い出が詰まった大切な故郷。帰省するたび立派になっていく駅前の景色を見ながら、嬉しさとともに自分もがんばろう、と励まされます。

枚方 思い出の1コマ 家族

ひらかたかぞく

枚方ゆかりの著名人の皆さんが秘蔵の写真とともに思い出を語ります。

第68回 七月 隆文さん



枚方市出身。小説家、ライトノベル作家。『Astra』でデビュー。『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』で第3回京都本大賞を受賞。同作は富士蒼汰主演で実写映画化を果たし、同時期に刊行していた『俺がお嬢様学校に「庶民サンプル」として拉致られた件』もアニメ化。ともにミリオンセラーを記録した人気作家。その他の著書に『ケーキ王子の名推理』『100万回生きたきみ』など。8月に将棋のタイトル戦における人間ドラマを描いた新作『天使の跳躍』を刊行。

編集後記

4月の人事異動で編集者となったYです。ひらかた菊フェスティバルを担当し、校正時「良い記事にしてくれてあり

がとう」と会の方から言葉をもらい大きな安堵感と充実感に包まれました。今年の菊フェス、ぜひぜひお越しください。



編集者 Y